ファインスチール　第50巻　4号　通巻541号　1、4、7、10月25日発行　昭和41年7月25日第3種郵便物認可　平成18年10月25日発行　ISSN 1348－494X

ファインスチール

Fine Steel

AUTUMN 2006

No.4

社団法人
日本鉄鋼連盟

CONTENTS 通巻541

01 特集
ファインスチール普及活動・テレビコマーシャル編

05 建築設計例
「屋久島の家Ⅱ」　堀部安嗣建築設計事務所

09 ファインスチールの使用例

11 建築めぐり
レーモンドの蒔いた種　速水　清孝

13 住宅メーカーでの使用例
一条工務店

ファインスチール特集

ファインスチール

（社）日本鉄鋼連盟亜鉛鉄板委員会では、「安っぽい」、「うるさい」、「暑い」といったイメージの払拭と、リフォーム分野における新たなビジネスモデルの構築により、住宅屋根分野におけるファインスチールの普及活動を推進しています。

ファインスチール業界を取り巻く諸環境の変化を捉え、ファインスチールの名称並びに良さを広く一般にＰＲすることを狙いに、日新製鋼、淀川製鋼所、日鉄鋼板、ＪＦＥ鋼板の４社を中心にファインスチール普及促進委員会（プロジェクト委員会）を設置して、2006年１月からテレビコマーシャル、新聞広告等を実施し、さらなるファインスチールの普及拡大を促進しています。

今号では、俳優の長塚京三氏を起用し、今年３月名古屋以西、８月関東・関西・名古屋・北陸で放映しましたテレビコマーシャル「地震を語る編」（15秒）の概要を紹介します。

また、テレビコマーシャルと並行して下図のポスターを制作して、ファインスチールの名称を広く一般にＰＲしています。本誌の裏表紙にバージョンⅠを2006年春・夏号に、バージョンⅡを今号に掲載しています。

ポスター

バージョンⅠ

バージョンⅡ

普及活動・テレビコマーシャル編

制作サイドの声（株式会社電通関西支社）

◎ 企画意図

まず、「ファインスチール」というネーミングを普及させたい、これがＴＶＣＭ制作の一番の目的でした。

とは言え、この聞きなれない言葉は非常に伝わり難い。

しかも商品の特性故に、ネーミングだけを伝えるのではなく、しっかりとネーミングと商品特徴を結び付けなければならない。

ファインスチールのさまざまな特徴のどのポイントが世の中に一番受け入れられるか、それがＣＭ制作のポイントになりました。そこで、世の中的な受け入れスピードの早さも考えて「地震」という切り口が決まりました。

そして「地震の揺れを考えると屋根は軽い方が良い」というストレートなコピーを作りました。

◎ 長塚さん起用に関して

商品自体が非常に高額であり、切り口が地震であることから、‘安心’、‘信頼’、‘安全’が今回のＣＭ制作に当って最も大事なトーンでした。

それを表現できる人、しかもコマーシャルが故の「言わされている」感じを出さずに、自分の言葉や間で表現できる方、ということから異論なく長塚さんの起用が決まりました。

◎ 広告効果について

商品ネーミングの認知という点ではまだまだだと思っています。しかし、「商品に興味がわく」、「商品特徴が分かりやすい」という調査項目が２回の調査をして上がっていることから、継続的にＣＭを流すことにより商品への関与度が高まっていると考えています。

また「信頼」「納得」という項目も比較して上がっており、徐々にではありますが、浸透している感触を得ています。

◎ 撮影エピソードについて

撮影が進むにつれて、監督と長塚さんの波長が同調してきました。監督の演出に対して長塚さんが独特の間で演技する、という２人の個性が上手く絡み合い撮影は非常に順調に進みました。

（社）日本鉄鋼連盟 ファインスチール

以下に、ファインスチールの名称並びに良さを広く一般にＰＲすることを目的に、俳優の長塚京三氏を起用し、今年３月名古屋以西、８月関東・関西・名古屋・北陸で放映しましたテレビコマーシャル「地震を語る編」（15秒）のストーリーボードをご紹介します。

テレビＣＭの放映

（第一回）
放映期間：平成18年３月25日（土）～31日（金）
対象地区：大阪、名古屋、福岡、静岡、福井
鳥取島根、岡山香川、広島、山口
徳島、愛媛、高知、長崎、大分、
佐賀、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
（計19地域）

（第二回）
放映期間：平成18年８月５日（土）～20日（金）
対象地区：関東、関西、名古屋、富山、石川、
福井（計６地域）

ターゲット：40～50代の男女

1

（長塚さん）
「地震の揺れを
考えると、

2

家の重量
バランスは
とても大事。

3

屋根は軽い方がいい。」

「地震を語る編」テレビコマーシャルの紹介

4

（長塚さん）
「安全、安心の屋根。」

5

（ＳＬ）：♪ファインスチール

6

（長塚さん）
「屋根を考える人は、
いのちを考える人。」

制作スタッフ

AgCr: 河野賢二（電通関西支社「TokyoRoom」）
近藤慎一郎（電通関西支社「TokyoRoom」）
鬼塚奉宏（電通関西支社「TokyoRoom」）
Pr　：内海章（ニッテンアルティ）
PM　：秋山和彦（ニッテンアルティ）
土井一岳（ニッテンアルティ）
Dir.　：中野達仁（東北新社）
Ca　：狩野毅（カノウカメラ）
Li　：磯崎貢（PICT）
Art　：桑島十和子（サムシングエルス）
Sty　：高橋靖子
H/M：右近了（アンル）
編集　：瀬ノ上真由美（オムニバスジャパン）
MAV：丸井庸男（オムニバスジャパン）
SE　：宮良明彦（オンパ）
音楽　：緑川徹（メロディー・パンチ）

ファインスチールを使った 建築設計例 No. 279

「屋久島の家Ⅱ」

設計 堀部安嗣建築設計事務所

屋久島の家Ⅱは、2005年５月に鹿児島県熊毛郡上尾久町に竣工した、専用住宅である。

敷地状況

敷地は1993年に世界自然遺産に登録された屋久島の中心街、宮之浦から車で10分ほどの上尾久町にある。上尾久町は島の東側に位置し、自然遺産とは離れている。

本物件は、屋久島の海側（敷地東側）を走る県道から山側（敷地西側）に車で３～４分入ったところにあり、山の麓の傾斜した敷地に建つ。眺めが良く、緑に囲まれた敷地である。敷地の南側には公園があり、隣接する幅員５ｍの道路は自然公園に訪れる人が多く通る。交通手段は車のみである。

敷地面積は 2,480.81m²ととても広く、建築面積は121.48m²（建蔽率4.89％ 許容70％）、延床面積は186.19m²（容積率7.50％ 許容300％）である。都市計画内無指定地域である。

設計条件

施主と設計者との関係は、2000年に設計した「屋久島の家Ⅰ」の施主のご夫人と、今回の施主のご夫人が知り合いであったため、設計が依頼された。施主の家族構成は40代のご夫婦と小学生のお子さんが２人の４人家族である。ご主人は医者をしている。

施主から設計者に要求されたことはほとんどないが、施主が音楽好きで、「ホームコンサートなどができたら良いな」という日常会話は交わされていた。

配置計画

設計者のコンセプトとして、三つの視線の制限が挙げられた。一つ目は敷地東側の海への眺望が開けるようにすること。二つ目はその眺望を損なわないように、住宅内部からの視線の制限すること。最後に外側から住宅内部が覗けないようにというものである。

配置図

建物自体が壁の役割を果たし、南側の隣家や公園の入口が建物からの視界に入らないように計画され、東側の海が広い庭を通して見られるように、東側に抜けた形状となっている。また、敷地西側には車庫への車路がつくられている。

外　観

六角形の建物で、外壁にはスギが使用されている。敷地周辺の林に調和した、外観となっている。また、屋根のガルバリウム鋼板（塗装溶融55％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）と対照的であり、自然素材の木と人口素材のガルバリウム鋼板双方の良さが引き立てられる。全体的に高さを抑え（最高の高さ5,390mm）、山の景観に合わせた建物となっている。

全　景

平面計画

この建物の最大の特徴は平面計画と言えるであろう。海側のコートは、子供の遊び場や野外ミニコンサートに利用されている。そのコートから階段を上がると、建物中央の広間に入ることができる。その広間を中心として、南側には水回りや子供部屋、北側には夫婦の寝室などがある。また、子供が汚れて帰ってきた時のために、コートから直接浴室へ入れるようにサービスヤードが配置されるなど、別荘のようにフィクション的な空間でありながら、動線がしっかりと意識された平面計画となっている。

内部空間

内部の仕上げは外壁の仕上げ同様スギ板である。素材の種類を抑えることで落ち着いた空間を作り上げた。また、内部空間の高さを落とすことで、馴染みやすい空間を作り、ヒューマン的なスケールとした。開口部をたくさん取り、コート側の開口部を明けると、コートとの一体感が感じられ、心地よい空間が作られる。

広間中心にあるオーディオからの美しい音は、鋭角のない六角形の建物の全体に響きわたり、建物全体がスピーカーのような効果を持ち、魅力的な音を作り上げる。

構造上の特徴

本物件は主体構造が木造在来工法、基礎は鉄筋コンクリートベタ基礎である。白蟻対策として1階西側に縁下を作り、土台のチェックができ、通風が確保できるように計画されている。小屋組や断面はどこも同じにし、シンプルな構成とした。

設計者のファインスチールに対する考え方

設計者はガルバリウム鋼板の長所として、「自由度が高い」、「軽量である」、「自然素材と相性が良い」という点を挙げ、屋根（ガリバリウム鋼板

ファインスチールを使った建築設計例

1 階平面図

2 階平面図

東立面図

断面図

広間からコートをみる

2 階客間

建設現場

矩形図

t=0.4mm 立ハゼ葺き）に利用した。また、屋久島は台風が頻繁に上陸するため、屋根勾配を 3 寸以上にすることは出来ない。そのため、自由度の高いガルバリウム鋼板は有効である。一方で、「金属特有の音」、「瓦より情緒性が劣る」、「質感がない」なども挙げている。

最後に

本物件は竣工してから 1 年経つが、今でも施主は「自分の家の感じがしない」、「いつまでも馴染めない家」であると言っている。これは、日々生活している上で新たな発見があり、常に新鮮な気持ちを持ち続けることができるからではないだろうか。また雨の多い屋久島では、雨とどううまく生活していくかが重要である。その点で、本物件は「雨を楽しむ」機能が仕組まれている。屋根にあたる雨音をコートで傘をさしながら聞く…広間の窓を開け、コートに降る雨を見て楽しむ…自然をいかに楽しみながら、生活を送り、その中で新たな発見がある場として、「馴染めない家」は「居心地のよい家」へと変化していくだろう。

設計：堀部安嗣建築設計事務所（堀部安嗣・松本美奈子）
〒112-0002 東京都文京区小日向4-5-17-601 TEL03-3942-9080 FAX03-3942-9087 E-mail horibe@yf7.so-net.ne.jp URL http://www012.upp.so-net.ne.jp/horibe/
レポーター：東京理科大学　大月研究室　近藤安代（M 1）　中村　誠（M 2）

ファインスチールの使用例

ファインスチールは、屋根や外壁以外にもシャッター、防音壁、標識など建設向けのほか、家電製品や鋼製家具、自動車・鉄道車両の内装など広い分野で使用されています。
今号でも、私たちの身近なところにあるファインスチールを使用した製品をご紹介します。

オフィス家具
（キャビネット及び机）

自転車置場

倉　庫

ガレージ

物　置

建築めぐり

275

東京大学生産技術研究所
藤森研究室
担当：速水 清孝

レーモンドの蒔いた種

木造建築をめぐる⑥

レーモンドについてはすでに前に書いたから、それでなくとも機会の少ないこの欄に再び書くべきかどうか大いにためらった。けれども、やっぱりこれは書かざるを得ない。

しばらくの間、不思議に思いながら眺めていた写真があった（写真1）。

コンクリート打ち放しの暖炉やら、皮を剥いたままの柱やら、柱を外して据えられた外部の建具廻りやら。写真を見る限り、アントニン・レーモンドの作品（写真２）に他ならない、にもかかわらず、雑誌に発表された設計者の名は市浦健、という建物だ。

戦前の市浦健といえば、「トロッケン・バウ（乾式構法）の市浦さん」あるいは「住宅営団の市浦さん」というイメージがあまりにも強い。そして戦後には「公共住宅の市浦さん」になっていくから、その流れから考えてしまうとどうにも腑に落ちない。

建物の名前は、「日光龍頭山の家」（1940（昭和15）年）。国策リゾートと国民の体力向上の叫ばれた時代を反映して、国立公園協会と建築学会が国立公園内に建つ山の家の設計競技を共催したのが1934（同９）年。それからしばらくして帝室林野局が、紀元2600年の記念事業のなかで、その実現に向けて動く。その結果、阿寒・大雪山・日光・吉野の国立公園に、山小屋・避難小屋・休憩舎などが建てられた。日光は、他に比べ交通の便もよく、幻の冬季五輪候補地となったこともあって力が入れられたのだろうか。龍頭の滝の他に湯元にも山小屋が建てられている。

戦時色が濃くなって、各種の資材統制がはじまったなかにあっても、そこは林野局の建物。特に材木の使用に関しては、このご時勢にこんなことが許されるのかというほどの贅沢ぶりであった。

見てみたいと考えながらも、一方で、もはや残っているはずもあるまいとも思っていたのだが、探してみたら、なんと、まだあった（写真３）。

かなり改造の手が加わってはいたが、雑誌の写真にはなかった部分、例えば廻り階段やら、鋏み梁、小屋組といった要素を見て、「やっぱり、これはレーモンド」と思わざるを得なかった（写真４）。けれど、それと同時にそこで、管理人の前田茂さんから、この建物にまつわる意外な噂を聴くことになった。

「設計はブルーノ・タウトだが、時節柄外国人の設計を口外できず、日本人の設計ということにされた」

タウトと日光の浅からぬ因縁（東照宮批判）を知る地元の気持ちも、そんな風説の誕生につながったの

写真１　「日光龍頭山の家」談話室（写真４とも市浦旧蔵資料）

写真２　「夏の家」（出典：『アントニンレイモンド作品集』）

写真３　「日光龍頭山の家」外観　現状

写真４　「日光龍頭山の家」広間

だろう。話としては面白いが、あり得ない―。

国立公園に山小屋を置く計画が定まるのが1937（昭和12）年。この建物の計画の着手はその２年後だから、1936（同11）年のタウトの離日にあたっては、まだまだ企画すら熟していなかった。

では、レーモンドはあり得るのかといえば、やはりこれも考えにくい。レーモンドもこの計画の本格着手の時期にはすでに日本にいない。しかも、晩年の市浦の回想にも、日光の山小屋は自分の設計とあるから、それを覆すのは至難の業。

実は、この建物がレーモンド風になったのは、ひとつ確実な理由がある。鍵はつくり手にあって、レーモンドの「夏の家」を手がけた奥日光の赤坂藤吉がこれを請け負っているのである。最終的には志村太七の設計になった湯元もそう。市浦もそのことはよく知っていた。

けれども、そうなると大工が意匠を決めたことにならないか？　市浦の意匠面でのイニシアチブが問われることにならないか？　そのへんをどう考えたらいいんだろう…。これが一番の悩みどころだった。

鬱々とした乱麻は、フジモリ先生がいともたやすく断ってくれた。曰く、「戦前のレーモンドの影響が確かにあったという証拠」　―なるほど、明快。

つまりこういうことだ。レーモンドが日本の建築界に残した足跡の偉大さを語るものは枚挙に暇がない。コンクリートの打ち放しに代表される新しい表現の試みから語るもよし、前川國男や吉村順三といった錚々たる弟子たちから語るもよしである。

その影響も戦前から大きかったはず。にもかかわらず、案外に見当たらなかったのが、それを示す証拠だった。レーモンドに直接学んだ者の作品にそれがあるのは当然として、他の建築家の作品に、影響の認められる建築というのは思いのほか見つけられていなかった。

おそらく市浦は、「夏の家」の職人たちを得て、それをやってみたいと思ったんではなかろうか。

かくして紛うことのない確かな影響を認め得るこの建物は、その証拠の一品となった。

室内はそれでいいとして、では、外観は？

これは岸田日出刀に違いない。市浦の師・岸田は設計の監修の立場にあったし、この少し前に彼が計画した大雪山のホテルの発想が色濃く見えるからだ。

つまり、龍頭は、「レーモンドの身体に、岸田の衣を着せた建物」ということになる。

しかし、戦後、戦時中のレーモンドがアメリカでやったこと。すなわち、日本の壊滅に役立たせるべく、焼夷弾の効果を実験するため、「プレファブ・ターゲット」と呼ばれる木造長屋の製作に力を貸したことが明らかになるに至っての市浦の心情は察して余りある。何しろ市浦は同じ頃、住宅営団で、庶民住宅の量産に悪戦苦闘していたのだから…。

ともあれ、ひとまず解決がついて、ちょっとした安堵を味わっているそんなさなか、またまた妙な話に出くわした。教えてくれた野沢重治さんは、戦後、「湯元山の家」がユースホステルとして使われていた時期に、管理をしておられた方。

「国立公園にふさわしい事例として、所管の厚生省（当時）が計画者に日光の山の家の見学を勧め、そうした来訪者が後を絶たなかった」のだという。

現在、国立公園内の建物には、勾配屋根が頑迷なまでに求められていると聞く。そのイメージの原点がここにあったということになるのかも知れない。

建設当初から、龍頭と湯元、この２つの日光の山の家の扱いは何か別格なところがあったから、さもありなんとも思える。そして、その影響がこうしたかたちで今日にまで及んでいるとしたなら、それはまた、真偽は別にして一興ではある。

とはいえ湯元はすでになく。龍頭もこのたび山の家の役割を終えて閉鎖となった。となれば建物も危うい。ご覧になりたい方はどうぞお早めに。

住宅メーカーでの使用例

株式会社一条工務店

一条の洋風 セゾン

免震構法全体図

一条の南欧風 ブリアール

一条の和風 百年

1．一条工務店の家づくり

一条工務店は、設立以来、「お客様よりお客様の家づくりに熱心であろう」を企業理念として、お客様に心から喜んでいただける住まいづくりに取り組んでいます。

ー“住まい”は家族を守る“シェルター”で在るべきー。2000年、私たちは「一条ハイブリッド免震構法」をブリヂストンと共同開発し、国土交通大臣一般認定を第１号で取得しました。当時、戸建住宅で実用的な免震システムを開発することは技術的に不可能とされていたため、画期的な開発でした。販売以来、多くの皆様から支持をいただき、現在では戸建免震住宅の分野において業界 No. 1のシェアを誇っています。

そして、究極の快適性能を追求した『高性能住宅「夢の家」』は、建物内の空気環境をコントロールすることで、外気に影響されること無く、一年を通して快適に過ごせる住まいです。世界水準の高性能でありながら、低価格であることが評価され、2005年度には省エネ大賞と環境大臣表彰を同時に受賞しています。

私たちは、単によいモノをつくればよいとは考えません。よいモノをどうすれば多くの方にお届けできるか、それが私たちの家づくりのテーマです。「モデルハウス仕様が標準仕様」というコンセプトもそのひとつです。一般的にはオプション仕様となっているモデルハウスを、一条工務店では様々な企業努力により、そのほとんどを標準仕様でご提供しています。何十年もお住まいいただく住まいだからこそ、より上質なもの、より安心なもの、より快適なものをお届けしたい。そんな想いをカタチにしていくことが、一条工務店の家づくりです。

免震層

2．理想の住まい「夢の家＿全館床暖房システム」

一条工務店では、「夢の家」の優れた断熱性・気密性を活かし、理想の暖房といわれる床暖房を採用した「夢の家＿全館床暖房システム」を好評モニター販売中です。体の表面を温風で温めるエアコン暖房と異なり、床暖房はふく射熱で体の芯をじんわりと温めるため、低めの室内温度でも快適に過ごせます。また、火を使わないので空気を汚さず、さらに空気の対流もないのでハウスダストを巻き上げる心配もない、まさに理想の暖房です。

3．ファインスチールの使用について

寒冷地の屋根材として、軽くて強度があることからファインスチールを用いた金属板葺きの屋根を採用しています。また、劣化しやすい破風において耐久性に優れていることから、ファインスチールを採用しています。

（株）一条工務店
浜松本社　業務推進室
〒432-8064
浜松市倉松町4040
TEL.0120-543511
http://www.ichijo.co.jp/

ファインスチール教授、
屋根について考える。

屋根を考える人は、
いのちを考える人。
安全・安心の金属の屋根、
ファインスチール。

(社)日本鉄鋼連盟 ファインスチール普及会　www.finesteel.jp

ファインスチール　第五十巻　四号

昭和四十一年七月二十五日第三種郵便物認可
平成十八年十月二十五日発行

一、四、七、十月二十五日発行　定価五二五円（本体五〇〇円）

発行所　（社）日本鉄鋼連盟　亜鉛鉄板委員会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館
☎03（3669）4815　FAX03（3667）0245